

研究ノート

地域づくりの拠点としての渋川市公民館の役割
その 1 公民館利用者に関する調査報告THE ROLE OF COMMUNITY CENTERS IN SHIBUKAWA CITY AS THE BASE
FOR COMMUNITY DESIGN:
An investigation report about the community center users in Shibukawa City part1森下 一成
MORISITA Kazunari

抄録

本稿は「平成 27 年度ぐんま地域・大学連携モデル事業」（群馬県主催）で実施した調査報告を内容とする。群馬県が主催する本事業を通じ、渋川市は、「地域づくりの拠点としての渋川市公民館の役割」について、現況を調査すること及び渋川市公民館の今後のあり方についての提言を筆者に求めた。本稿は、地域づくりの拠点としての渋川市公民館の現況について、特に住民を対象とした調査の結果に基づき述べるものである。

キーワード

公民館、社会教育、地域づくり、コミュニティデザイン

（受付 2016 年 10 月 28 日、改訂 2016 年 12 月 2 日、公表 2016 年 12 月 22 日）

はじめに

渋川市内にある 12 の公民館¹は、地域活動・社会教育の拠点として、これまで多岐にわたる活動を積み重ね、近年では、古巻公民館（平成 23 年）が優良公民館として文部科学省から、伊香保公民館（平成 27 年）・小野上公民館（平成 28 年）が群馬県教育委員会から、それぞれ表彰を受けている。このように高く評価されている渋川市の公民館行政においても翳りを帯びる一面もあり、これに対する行政の問題意識の高まりが「平成 27 年度ぐんま地域・大学連携モデル事業」を通じての、渋川市公民館の現況と今後のあり方を模索する調査・研究の要請へとつながった。渋川市における公民館に関する包括的な現況調査は本調査が初めてとなる。本調査は住民を対象とする調査と公民館定期利用団体（以下、「サークル」）を対象とするものに大別されるが、本稿では前者を内容とし、主として公民館利用者に対する調査に基づく結果について述べる。公民館の非利用者、並びにサークルに対する調査については別稿にて扱う。

以上より、本稿の 1 では調査・研究の目的を、2 では調査方法を、それぞれ述べる。3 以降は調査結果を内容とし、3 では（1）公民館利用者像、（2）利用の現状、（3）公民館主

催講座・事業、(4) サークル、(5) 地域活動への意志、についてそれぞれ述べ、まとめへと導く。

1. 調査・研究の目的

本調査・研究に対し、行政からは以下のような目的が示された。

・地域と大学が連携し、大学の知的資源を活用して地域の課題を研究し解決を図るとともに、地域の活性化に寄与すること。

・具体的には、地域づくりの拠点としての渋川市公民館の役割について、現状調査及び今後のありかたの検討をおこない、渋川市に提言を行うこと。

上記の行政の要請を受け、以下のように本調査・研究目的を具体化した。

(1) 住民の集う場としての公民館について

本稿においては、地域づくりとはすなわちコミュニティデザインであると解し、主として人と人との結びつきをつくりながら、地域を活性化させるための能動的な活動全般を指すものとする。公民館がこうした地域づくりの拠点となるためには、人びとのつどいが必須の条件となる。そのため、中高年利用者の満足度を維持しつつ、若年層を公民館につどわせることが、渋川市に対する提言に向けた調査・研究の指針となる。

- ① 各公民館における定期利用団体や講座・事業に参加する利用者の満足度とニーズを調査し、公民館の果たす地域づくりの拠点としての役割について、現状と今後のありかたを明らかにする。この調査では、特に各公民館の利用者の特性を明らかにする。
- ② 利用していない市民（特に10～20代の若年層）の公民館に対する意識を調査し、ニーズを把握して今後の地域づくりの拠点としての公民館の役割に反映させる。
- ③ 各公民館における活動と市立小中学校及び市内の県立高校等におけるクラブ活動・部活動とを調査し、内容を同じくする活動の並存状況、並びに相互交流の潜在的可能性を明らかにする。
- ④ 研究進行が順調であれば、各区域における公民館の立地、施設内の「使い勝手」について、ハード面の調査を実施し、地域づくりの拠点にふさわしい公民館のあり方に反映させる。

(2) 社会教育と学校教育との循環、多様な協働による、学びの共同体形成について

- ① 新しい教育法制及び中教審答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた 学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」にも促されて、渋川市における公民館と学校の連携を強化し、若年層を巻き込んだ地域づくりの拠点としての公民館像を確立する提言に向けた調査を実施する。

- ② 公民館における各事業や社会教育の成果を学校教育へ還元し、「学びの共同体」形成へ向けた、知の循環過程をつくる提言へ向けた調査を実施する。
- ③ 地域活動に研究室の学生を参画させることによって起きる変化の検証と、これからの協働のありかたを模索する（コミュニティデザインの実践）。
- 本稿では、(1) ①を内容として述べる²。

2. 調査方法

調査は、質問紙法による調査を中心とし、現地調査でのヒアリングも補助的に行った。

(1) 質問紙による調査対象と調査方法

調査期間	平成 27 年 10 月 1 日～25 日
対象者	地域抽出法により抽出した市内行政区（並木町、大崎、元町、川島、有馬、石原西、雷之塚、小野子東、横堀、上三原田、上南室）の全世帯（世帯内利用者・非利用者） ³
調査票配布方法	自治会を通じて各世帯へ配布
調査票回収方法	自治会を通じて郵便にて返送
対象者数	4353 世帯
回収調査票数	1542 世帯（1838 人）
回収率	35.4%（世帯）

(参考) ヒアリングによる調査対象と調査方法

調査期間	モデル事業実施期間中、随時
対象者	各公民館館長及び他職員、住民
回収率	研究者代表者（筆者）及び研究補助者である学生が実施する。

このうち、利用者の回答は 764 人、非利用者の回答は 1074 人、計 1838 人が回答した⁴。

世帯内での回答者は、性別でみると女性が 49.8%、男性が 38%と、女性の割合が多く、年齢層では 50 才以上が 72.2%を占めた（図 1）。

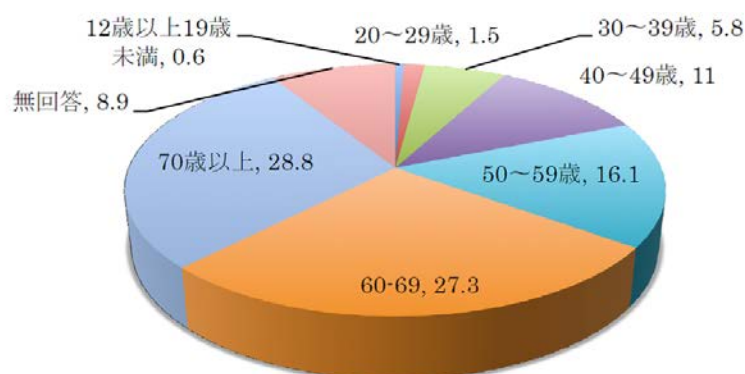


図1 回答者の年齢層

また、何らかの形態で働いている方が43.7%と最も多く、無職の方が19.4%でそれに続き、専業主婦・主夫は13.6%だった。家族構成では核家族が最多だった。

3. 公民館利用者に対する調査結果

回答した1542世帯中、世帯構成員全員が利用する世帯は470世帯(30.5%)だった。非利用者だけの世帯が5割を超えることが明らかになり(後掲)、公民館を使うか使わないかは世帯を単位として明瞭に分かれる傾向が明らかになった。

(1) 利用者像

公民館利用者は、女性が多く、男性は少ない(図2)。

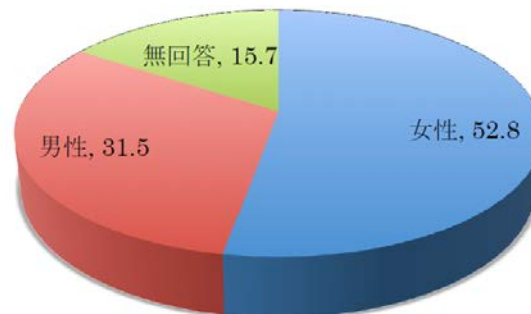


図2 公民館利用者の性別 (単位は%)

n=764

年齢層で見ると、10歳代、20歳代は極端に少なく、30歳代から徐々に増えるが、主たる年齢層は60歳代以降で56.6%を占める(図3)。学齢児童・生徒は、地域の小・中学校を通じて何らかの形で地域活動に参加していることを想定すれば、10歳代後半から20歳代の公民館利用の少なさは、20歳代が公民館での活動及びそれに連なる地域活動にほとんど参加していない状況をうかがわせるものである⁵。

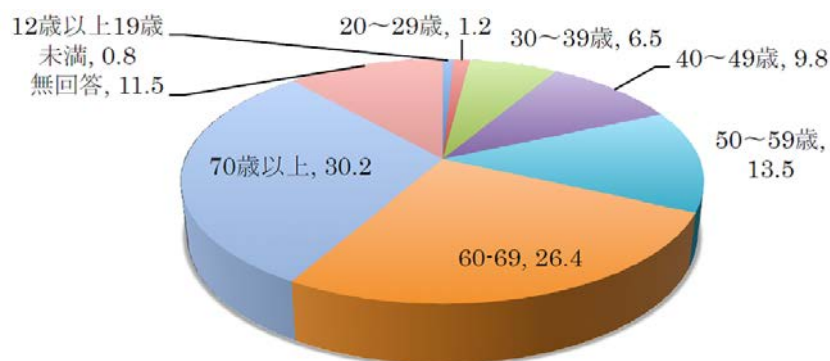


図3 公民館利用者の年齢 (単位は%)

n=764

利用者は、何らかの形態で働いている方が44.6%であり、無職と専業主婦・主夫がほぼ拮抗している（図4）。また、家族等と同居している方が多く（77.3%）、独居者は10.7%にすぎない。家族構成は核家族が最多だった。

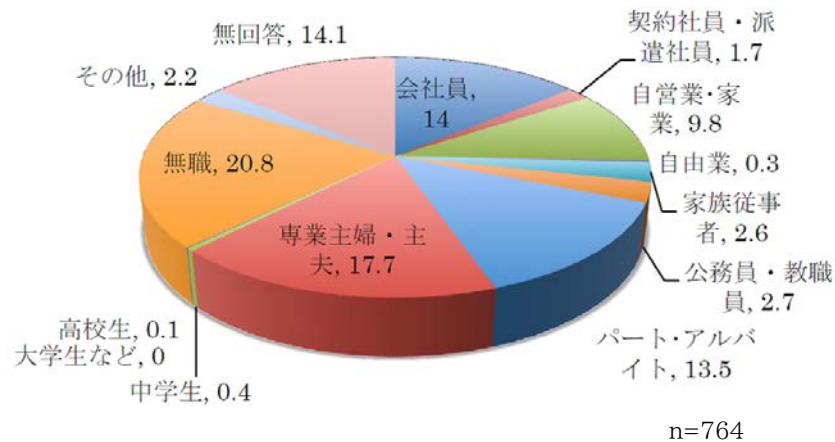


図4 公民館利用者の職業等（単位は%）

（2）公民館利用の現状

各公民館の利用者数は地区内の人口によって数値が左右される（図5）。

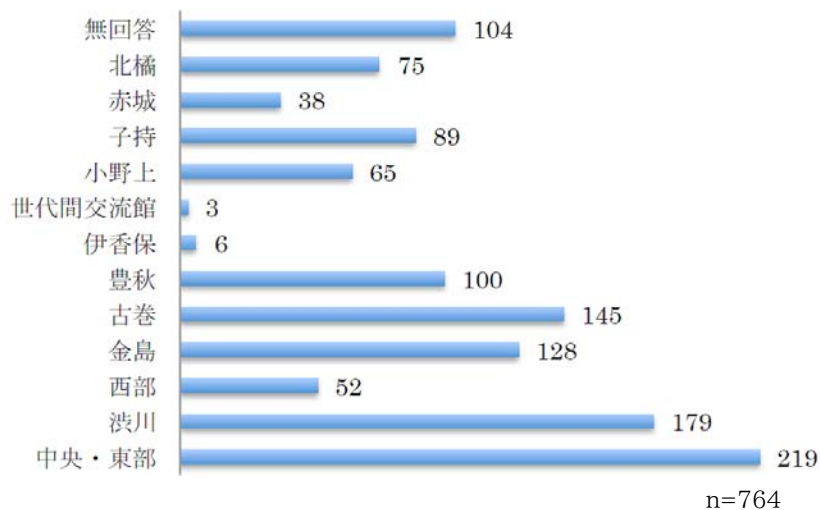


図5 利用する公民館（単位は人）

伊香保公民館、世代間交流館（伊香保地区）の利用者が少ないのは、伊香保地区の世帯から回答がなかったことによる。また、その利用頻度については、かなりばらつきがある（図6）。重複回答を可としている。

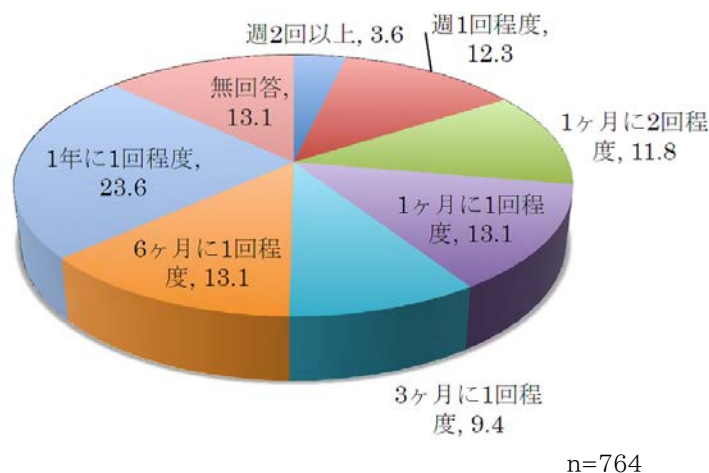


図6 公民館利用の頻度（単位は%）

公民館利用の目的については、サークルなどでの利用が最も多く、サークル構成員が公民館利用者の中核であることが改めて明らかになった（図7）。次いで地域行事への参加、公民館主催の講座・事業への参加が続く。「それ以外」と回答したものの中には、「ピアノ発表会のリハーサル」、「図書館利用」、「会議」、「健康診断」、「安全・安心パトロール」、「子育てサロン」、「母親学級」、「知人との交流」などの記載があった。なかでも、「図書館利用」は最も多く18人による記載があった。重複回答を可としている。

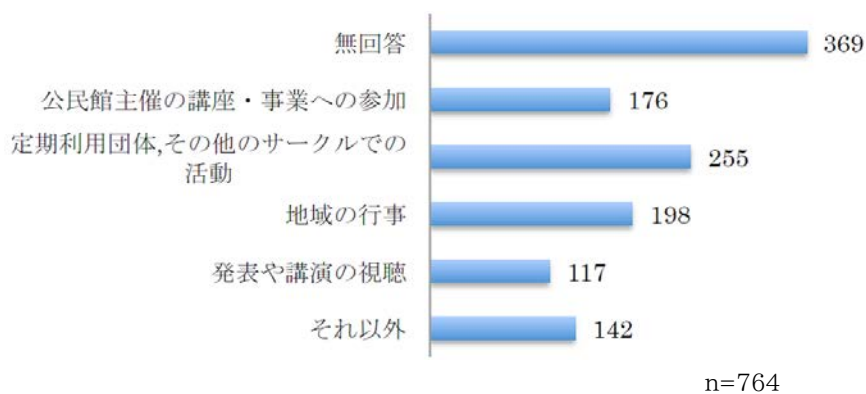


図7 公民館利用の目的（単位は人）

公民館での講座や行事の情報を得るメディアに関する質問では、「公民館だより」、「広報しぶかわ」から情報を得るとする回答が突出して多い（図8）。チラシ、ポスター・張り紙などのメディアよりは、むしろ「口(くち)コミ」と呼ばれる家族・知人・友人から得ることが多く、個々人への「声がけ」も有効な伝達手段であることがわかる。インターネットに

よる情報摂取が過少である点は注目に値するが、回答者の年齢層が中高年齢層に偏っていることを考慮する必要がある。「インターネット」という回答のうち2件は「市の公式サイト」との回答が付記されていた。「その他」と回答したものの中には、「市からの通知」が3件、「テレビ」、「保健所」、「学校」などの記載があった。重複回答を可としている。

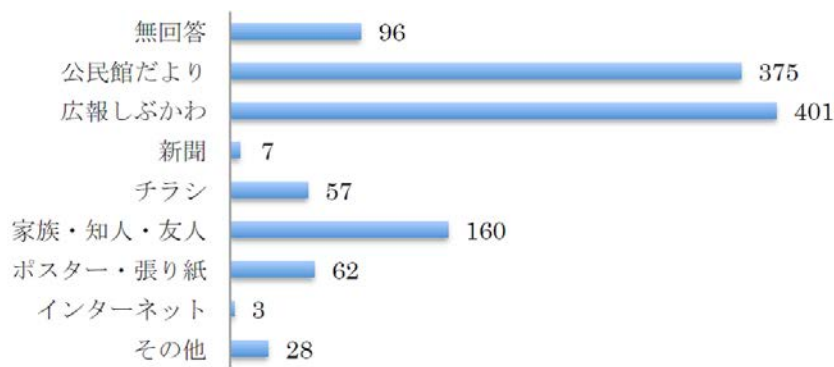


図8 公民館情報を知る媒体（単位は人）

n=764

利用者が利用する公民館までの交通手段については、自家用車（オートバイを含む）を運転して公民館まで通う利用者が多く、回答者764人のうち527人と圧倒的に多い。これと比べて、他車が運転する自動車・オートバイと答えた回答はわずかに34人に過ぎない。徒歩（95人）、自転車（23人）との回答もあるが、今後の高齢化の進行により、たとえば自動車免許返納など、自家用車等を使えなくなった場合の対応が懸念される。「それ以外」の回答に具体的な交通手段についての記載はなかった。重複回答を可としていなかったが、複数の交通手段を選択している回答については、それぞれを算入対象とした。このような交通手段の別を問わず、利用者が主に利用する公民館までの所用時間は、15分以内が74.1%、30分以内が13.4%と、近距離での利用が全体の9割近くを占める。

また、公民館を利用しやすい時間帯については、回答者764人のうち、午前中が291人、午後1時から5時が327人、午後6時から10時が153人だった。この調査結果は回答者の年齢層の偏りにあるところが多い。

公民館での滞在時間については、2時間以内の利用者が67.3%であり、サークルでの利用時間1単位、あるいは公民館主催講座・事業1つの開催時間内と推測できる。

（3）公民館主催講座・事業

公民館が主催する講座・事業への参加者は52.6%と半数を超え、参加経験のない方は33.8%と少ない（無回答13.6%）。参加した公民館主催の講座・事業については、地域イベン

トへの参加は多いが、地域課題や地域貢献に関しては消極的な傾向であることがわかる。一方で、個人の趣味や教養を深める講座は多くの参加者を集めている。「その他」と回答したものの中には、「子どもの夏休み中の講座」、「体操教室」などの記載があった。重複回答を可としている（図9）。

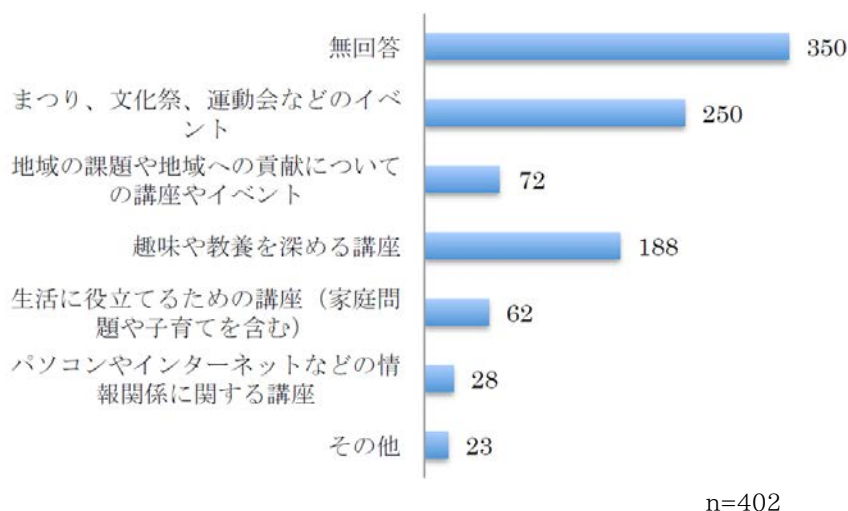


図9 参加した講座・事業（単位は人）

公民館主催の講座・事業への参加理由について、参加理由として多いのは、趣味・教養、健康・体力など、主として個人に関するもので、「地域・社会をより良くする」という参加理由は少ない（図10）。「その他」と回答したものの中には、「役員だから」、「学校の課題に取り組むため」等の記載があった。重複回答を可としている。

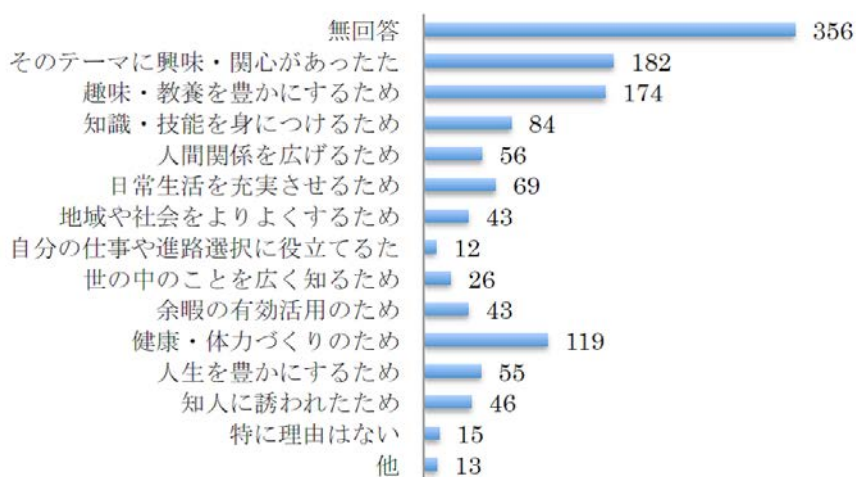
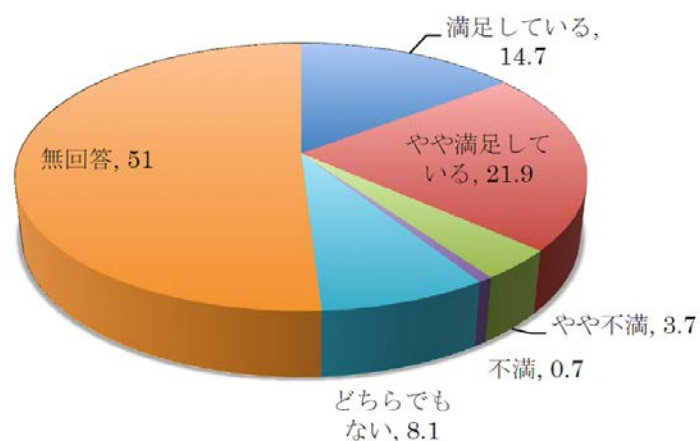


図10 公民館主催講座・事業への参加理由（単位は人）

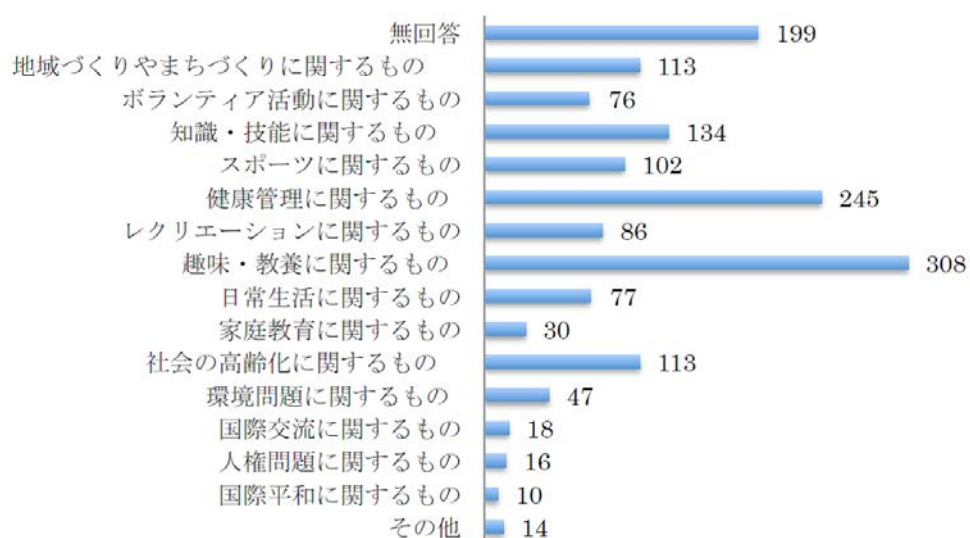
公民館主催の講座・事業に対する満足度については、明確に不満を表す回答より明確に満足を表す回答が多い（図11）。公民館主催事業は予算によって左右される傾向がある。予算が存分に割り当てられていない現状において、「満足」「やや満足」で35%強の回答があることは評価できる。



n=402

図11 公民館主催講座・事業に対する満足度（単位は%）

公民館が主催する講座・事業で希望するテーマについては、「趣味・教養」、「健康管理」、「知識・技能」が順に多く、これらが主として個人に関わるテーマである一方、次に多いのが「地域づくりやまちづくり」、「社会の高齢化」とコミュニティに関わるテーマとなっている点に注目したい。地域づくりの拠点としての公民館はこうしたニーズを掬わねばならない（図12）。



n=764

図12 公民館が主催する講座・事業で希望するテーマ（単位は人）

「その他」と回答したものの中には、「幼児・子ども対象事業」、「子供の夏休みのポスターとか宿題教室」、「お花に関するもの」、「防災教室」、「パソコン教室」などの記載があった。重複回答を可としている。

(4) サークル活動

公民館でおこなわれているサークル活動への参加経験については、経験のある方が33.2%、ない方が55.9%と、公民館利用者でもサークル参加者はおよそ3分の1に留まる。

サークル活動に対する参加者の満足度については高い傾向が示され（図13）、参加歴については「1年未満」「1～3年」がほぼ同値であるのに対して、「4～5年」ではおよそ2分の1に落ち込み、その後、「5年以上」では最も高い割合になっている（図14）。サークルに参加して、4年目から5年目にかけてが1つの節目になっているといえる。

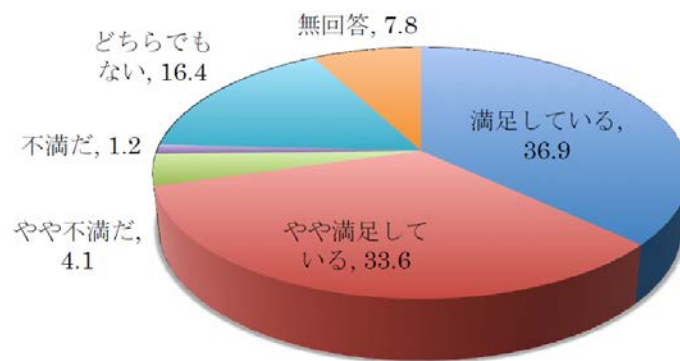


図13 サークル活動に対する参加者の満足度（単位は%） n=244



図14 サークル活動への参加歴（単位は%）

n=244

利用者が現在参加しているサークル活動について、圧倒的に多いのが体力や健康の維持・増進を主たる活動内容とするサークル（スポーツ、ダンス・舞踊、ヨガ・気功・体操）であることがわかる。料理、音楽、手工芸なども多い（図15）。概して最も多い利用者の年齢層に相応した内容になっている。重複回答を可としている。

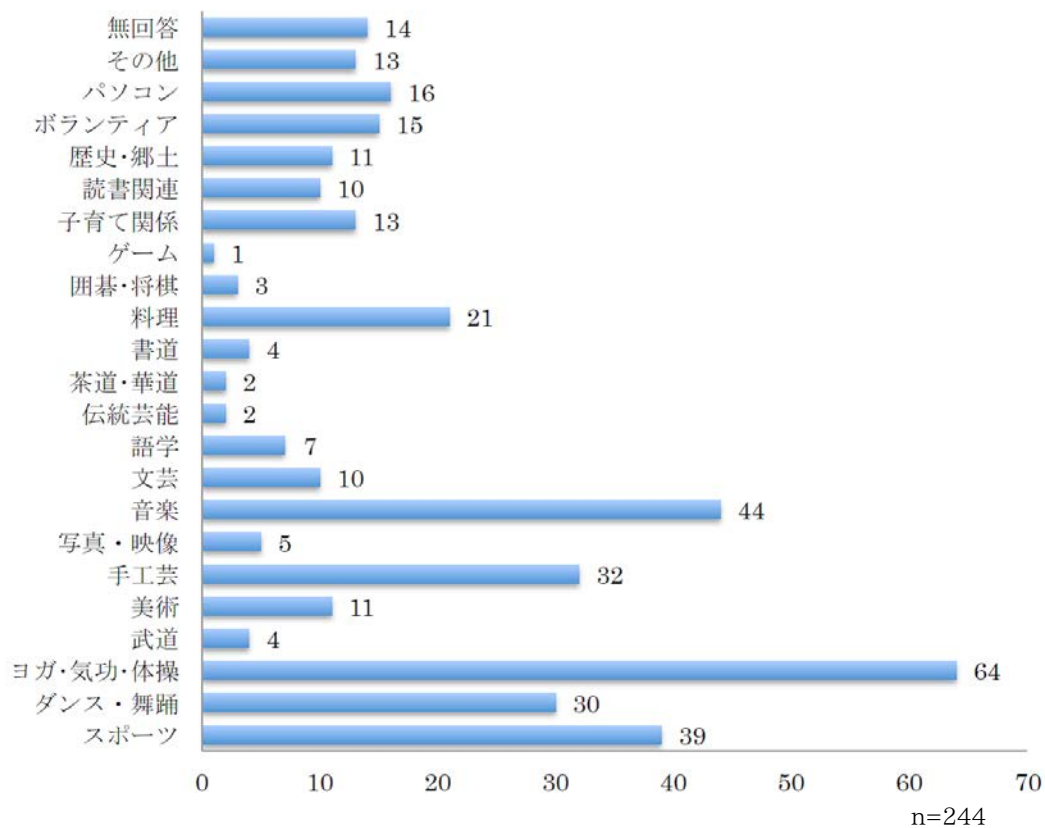


図15 現在参加しているサークル活動（単位は人）

こうしたサークル活動に参加する理由については、前項の質問に対する回答と呼応した回答であるともいえよう。地域や社会をよりよくすることについて、サークル参加の理由とする回答者は少ないが、そうしたことを活動の主旨とするサークルが少ないことに起因すると思われる（図16）。重複回答を可としている。

公民館利用者でもサークルに参加しない方が圧倒的に多いが、その理由については、「時間」が理由になっている回答が突出して多い（図17）。きっかけがつかめなかったり、活動の内容や活動自体を知らないケースについては、コーディネートや情報提供により前進を図ることができる。重複回答を可としている。

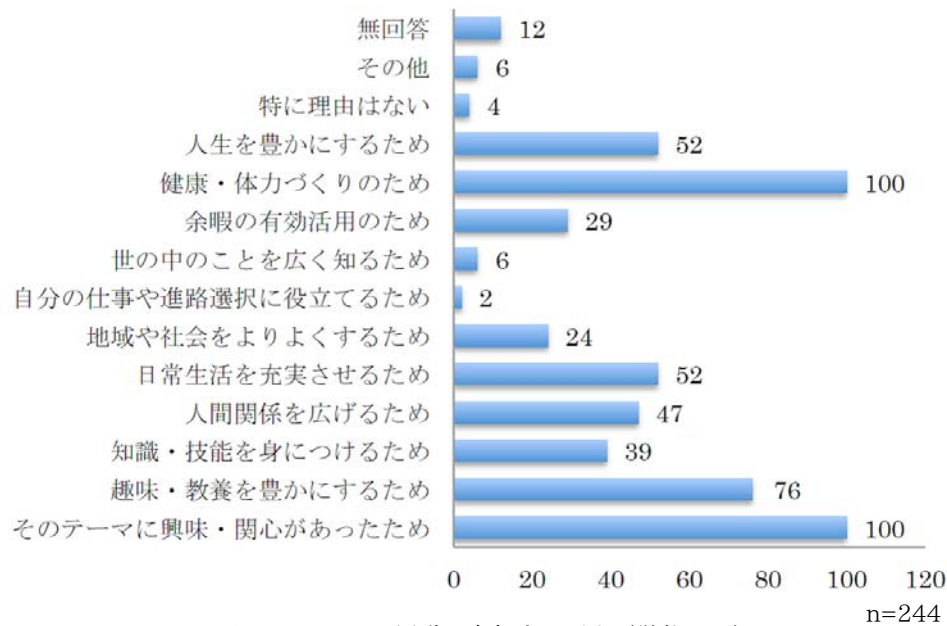


図16 サークル活動に参加する理由 (単位は人)

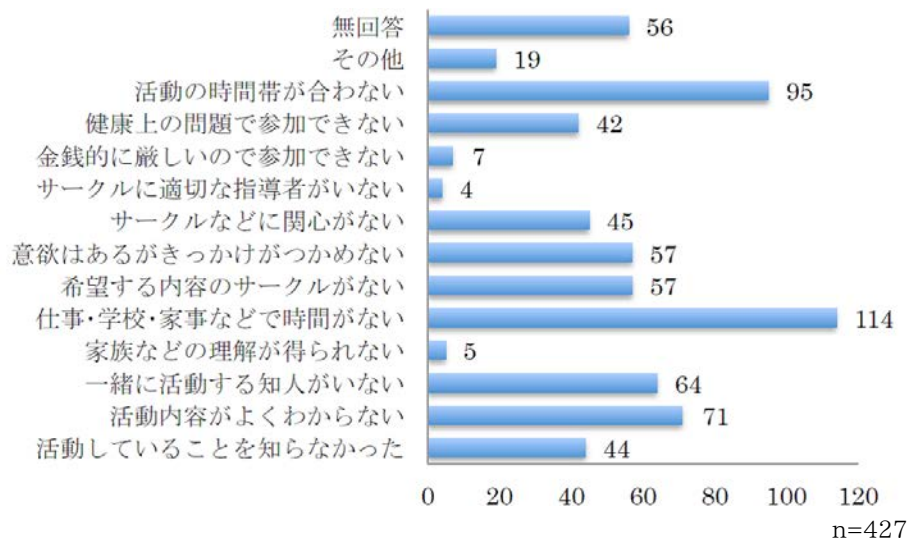


図17 サークル活動に参加しない理由 (単位は人)

(5) 地域活動への意志

公民館での活動・学びの活かし方については、「地域づくりやまちづくりに積極的に関わるようにして活かしている」という回答は少ないが、「仲間づくりや人間関係を広げること」に活かしている」という回答が「趣味や教養を深めることに活かしている」という回答に

次いで多いことに注目したい（図18）。仲間づくりや人間関係の広がりをもどのように地域活動に結びつけていくか、公民館のコーディネート機能が期待される。重複回答を可としている。

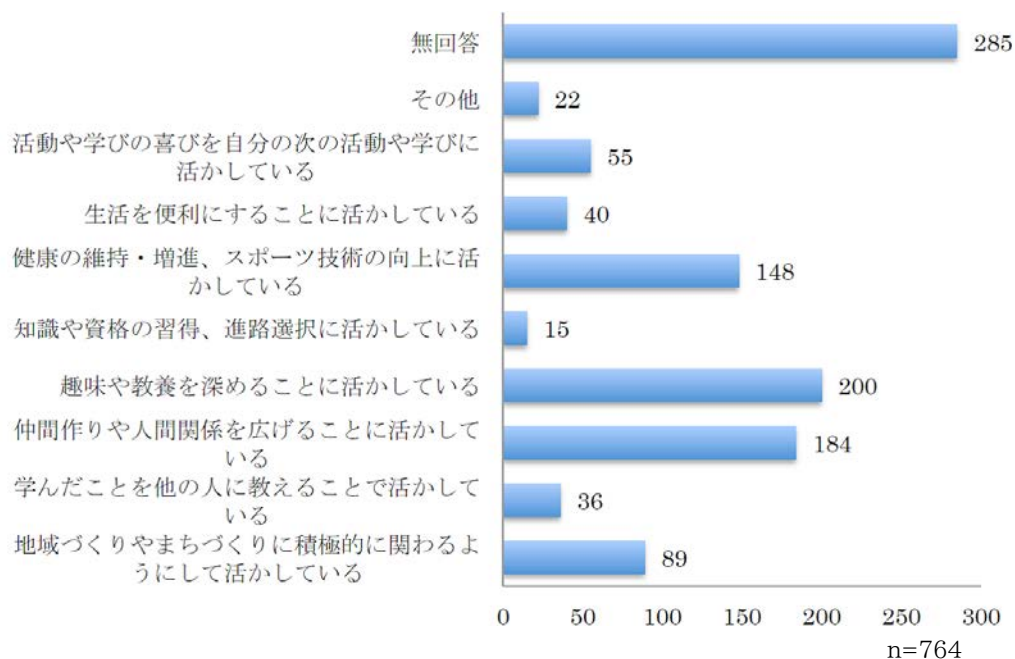


図18 公民館での活動・学びの活かし方（単位は人）

公民館で得た知識・能力・特技を地域で活用する関心の有無について、「活用する意思」のある回答を合わせると40%強となる（図19）。

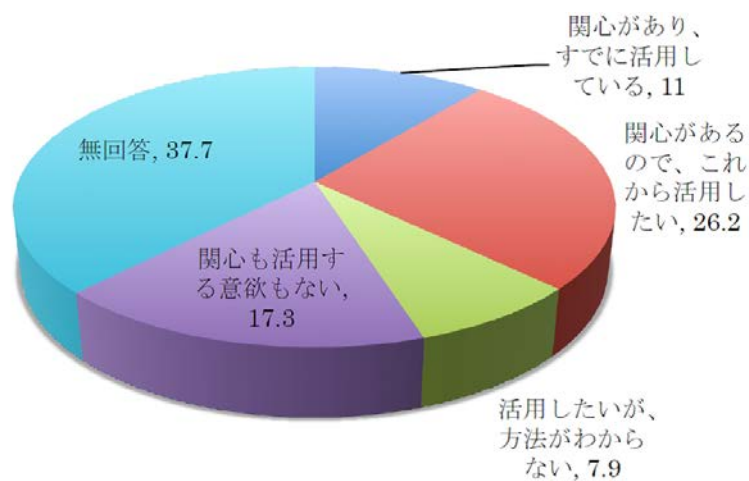


図19 公民館で得た知識・能力・特技を地域で活用する関心の有無

「活用したいが、方法がわからない」と答えた方の要望する支援については、以下のような主旨の記載があった。同じ主旨の回答はまとめ、質問から外れた回答は除いている。

- ・集まる方々の程度の幅が広く、人材として使えないことへの対処
- ・ある程度、年代別の活用方法を教えてほしい
- ・アンケート調査と広報活動でネットがない人に紙で知らせてほしい
- ・イベントやサークル活動のより詳しい内容の情報が知りたい
- ・同じ思いの仲間が集れる機会を作れるように支援を
- ・活用できる情報量を増やして欲しい
- ・まず参加を促すように支援を
- ・気軽に公民館の事業に参加できるような支援を
- ・希望や要望を気軽に聞き入れる体制を整えてほしい
- ・広報で広く知らせて欲しい
- ・サークル活動への支援をしてほしい
- ・資金面での支援をしてほしい
- ・地域や活用場の情報・協力者の紹介を支援してほしい
- ・学んだ語学が活かせるような交流・ボランティアの場を紹介してほしい
- ・もっと活動内容を紹介して欲しい
- ・リーダーがいないので確保・紹介してほしい
- ・練習などの場所を確保してほしい

地域での知識・能力・特技活用のありかたについての回答は図 20 の各項目のように大別してまとめた。質問から外れた回答は除外した。

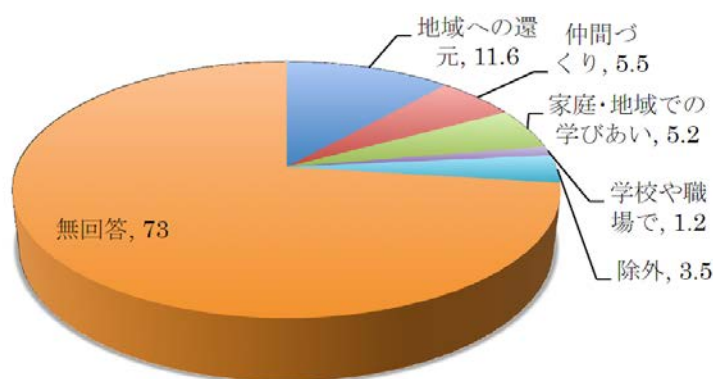


図 20 地域での知識・能力・特技活用のありかた（単位は%）

n=345

地域づくりの拠点としての公民館を運営する意思の有無については、図 21 の通り。重複回答を可としている。なお、無回答は 420 人。公民館の運営に直接参加する意思を表明する回答は少なくない。また、アイデア提供の意思を持つ回答者は 100 人を優に超えている。

たしかに、関わりたくないという回答が最多だが、フォーマル、インフォーマルにわたるコミュニケーションの蓄積により、関わる側へと転換する可能性はある。

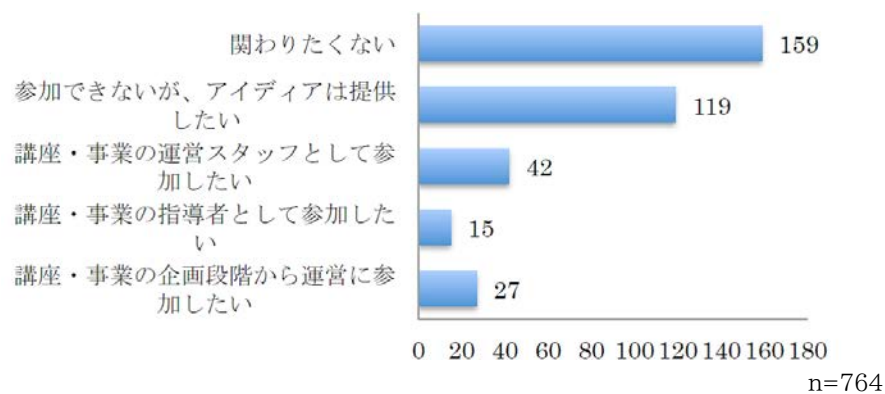


図 21 地域活動の拠点としての公民館を運営する意思の有無

4. まとめ

本調査からうかがえる渋川市公民館の現状において、最も大きな課題は利用者の偏りである。今後、渋川市公民館が実質的な意味において「地域活動の拠点」となるためには、より多くの年齢層からの参加を呼び込み、多世代にわたる交流を深める必要がある。近年は「多世代共創」として持続可能なあり方を志向する動きがあるが、その端緒が多世代交流にあることはいうまでもない。多世代にわたる交流を入口として多世代共創にいたる装置としての機能が公民館に求められている。

地域づくりの拠点としての公民館を支えている中核層はサークル活動参加者と推測できる。定期的に公民館に訪れ、サークルの目的が必ずしも「地域づくり」をテーマとしていなくとも、サークルにおける人的な結合は当然に地域づくりの基盤たり得るからだ。一方で、公民館主催講座・事業で希望するテーマは、実は多くのサークル活動によって網羅されているのだが、サークルへの参加者はおよそ 3 割に留まっている事実がある。こうした、学びへの希求はあっても、現状においてサークルに存在するような人的な紐帯までは求めない層をどのように公民館を拠点とする地域活動に結びつけていくかは今後の課題のひとつだろう。特に、図 19、図 20 で示されている利用者の地域活動に対するポジティブな意

思は一つの希望である。こうした思いをどのように掬うか、その手法について本調査・研究に基づき、2016 年 2 月に渋川市に対して提言をなした次第である。

謝辞

本報告は「平成 27 年度ぐんま地域・大学連携モデル事業」報告（群馬県へ提出）における利用者住民を対象とする調査に基づくが、調査が多岐にわたったことから、その過程では渋川市中央公民館職員の方々に格別のご厚意をいただいた。また、事務方として県庁及び渋川市への窓口になっていた関口剛氏をはじめ、学校法人学文館及び上武大学職員の方々からさまざまなお心遣いをいただいた。査読者、矢島格先生ならびに竹内芳衛先生からは校正等にあって有益なご指摘をいただいた。皆様に深く感謝の意を表し、厚く御礼申し上げる次第である。

付記

本調査・研究を嚆矢として、2016 年 10 月 26 日、上武大学と渋川市の間に連携協定が締結された。学生を迎え入れていただいた渋川の皆様に改めて感謝申し上げるとともに、研究室の学生諸君の奮闘を讃えたい。

注

¹ 渋川市に在る公民館は、全市域を公民館活動区域とする中央公民館と、渋川公民館、渋川東部公民館、渋川西部公民館、金島公民館、古巻公民館、豊秋公民館、伊香保公民館、小野上公民館、子持公民館、赤城公民館、北橘公民館の計 12 の公民館で、それぞれの活動区域を持つ。ただし、渋川東部公民館は中央公民館に併設されている。

² 調査研究の目的（1）③および（2）①②については、渋川市内の小・中学校在籍児童・生徒を対象とする調査を予定していたが、渋川市教育委員会の協力を得られず、実施できていない。

（2）③については、以下のような実践を果たしている。

・渋川市中央公民館における避難所運営に関するシミュレーションゲーム（HUG：避難所運営ゲーム）参加と広報（2015 年 9 月 2 日、2016 年 9 月 7 日）。なお、2016 年度の参加では研究室所属学生が赴いた熊本における震災ボランティアの報告・講演が実施された。

・赤城公民館ふれあい祭補助と研究室主催企画（2015 年 10 月 31 日・11 月 1 日、2016 年 10 月 29 日・30 日予定）

・中央公民館定期利用団体作品展 企画段階からの参画と当研究室によるワークショップ（2016 年 3 月 11～13 日）研究室紹介展示・渋川市模型展示・絵手紙体験ワークショップとコンテスト・サークルパンフレット制作を実施した。なお、コンテスト最優秀賞受賞者は 2016 年新町七夕まつりにご招待し、学生の案内のもと親交を深めた。2017 年 3 月も企画段階から参加の要請がある。

上記の実践は「コミュニティデザイン実践報告」として別稿にて報告する。なお、上述の通り、2016 年 10 月現在、進行している企画があり、なかには定例化を企図しているものもある。

³ 各公民館の活動区域から行政区域を有意抽出している。

⁴ 図などに表記されている n は、それぞれの設問の回答者数である。図表などで百分率の計算は、小数第 2 位を四捨五入して、小数第 1 位まで表記しているので、必ずしも足して 100%になるわけではない。複数回答可

の設問の回答数は n と必ずしも合致するわけではない。

- ⁵ サークルを対象とする別の調査では、10 歳代のサークル参加者は一定数いるものの、やはり 20 歳代の参加者は少なく、30 歳代 40 歳代になるにつれて増えてくる。これを併せて考えると、20 歳代は「地域活動の谷」と表現できる。

参考文献

森下一成「平成 27 年度群馬県地域・大学連携モデル事業『地域づくりの拠点としての渋川市公民館の役割』

現状分析と今後についての提言」http://www.city.shibukawa.lg.jp/kosodate/shougaigakushuu/cyuokominkan/teigen_d/fil/teigen.pdf（参照 2016-10-28）

渋川市教育委員会（2014）「公民館概要」渋川市

文部科学省“第 64 回優良公民館被表彰一覧”

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/___icsFiles/afieldfile/2016/03/15/1330410_03.pdf（参照 2015-02-27）

群馬県“平成 27 年度優良公民館群馬県教育委員会表彰について（生涯学習課）” 2015-10-07

<http://www.pref.gunma.jp/houdou/x3900077.html>（参照 2015-02-27）

群馬県“平成 28 年度優良公民館群馬県教育委員会表彰について（生涯学習課）” 2016-11-04

<http://www.pref.gunma.jp/houdou/x3900096.html>（参照 2016-11-25）

渋川市“住民基本台帳行政区別人口・世帯数平成 28 年 1 月末現在一覧” 2016-02-04

<http://www.city.shibukawa.lg.jp/shisei/toukei/jinkou/p003771.html>（参照 2016-02-27）

渋川市“渋川市の統計 14 教育・文化” 2016-02-08

http://www.city.shibukawa.lg.jp/shisei/toukei/toukeisho/p003754_d/fil/14kyouiku.pdf
（参照 2016-09-25）

渋川市市誌編さん委員会 編（1995）『渋川市誌 第 6 巻 歴史資料編 近代・現代』渋川市